

2024年5月31日（金）～6月2日（日） 開聞岳(924m)、韓国岳(1700m)登山

クマさん会では2007年（平成19年）4月に、3泊4日の日程で百名山 開聞岳、韓国岳（霧島山）に登りました。霧島山中心部の新燃岳（しんもえだけ）まで登り、コバルトブルーの火口湖も覗くことが出来ました。新燃岳大噴火前の頃です。

今回の開聞岳、韓国岳登山行はほぼ同じコースをたどりますが、新燃岳の火口付近は現在では入山禁止となっていますので、火口まで足を延ばすことは出来ません。ただ、季節が前回より1ヶ月ほど遅いので、ミヤマキリシマを楽しむことが可能です。

2泊3日のプランでしたが、時間の許す限り観光も行いました。知覧町の武家屋敷庭園や特攻平和会館、霧島方面では霧島神宮、坂本龍馬・お龍が訪れた塩浸温泉などを訪ねます。

思わぬハプニングが待っていました。開聞岳下山中に中島さんが良くご存じのS社の男性とバッタリ遭遇しました。旅は道連れというわけで、この男性と韓国岳も同行することになりました。その顛末は、このレポートの中で紹介いたします。

今回の登山行は、中島さんと吉松の二人づれです。

初日と二日目の開聞岳下山までは吉松がレポート。開聞岳下山以降のレポートは中島さんが担当です。

初日：5月31日 金曜日 雨模様 東京から鹿児島へ 鹿児島市街天文館、知覧町、指宿市山川などを訪問

朝方の関東地方は雨模様であったが、鹿児島地方は夕方になれば曇りに変わるとの予報であった。今日は登山の予定は無く、指宿の宿に向かう道すがら観光をしたりどこかに立ち寄りたりできれば上首尾なので、空模様はあまり気にならなかった。

ANAの搭乗待合場所で中島さんと合流してチェックイン

羽田空港発9時5分のANA621便に乗って鹿児島空港に向かった。



11時ごろ、鹿児島県国分あたりの上空を通過

雲が低く垂れこめていて、錦江湾に浮かぶ桜島の姿は見ることは出来なかった。



鹿児島空港に予定時刻に到着

空港前のニッサンレンタカーで、目立つピンク色の車を借りることになった。

空港からは九州自動車道と指宿スカイラインを利用しながら、薩摩半島を指宿に向かって南下する計画である。昼食は、南下途中の川辺峠辺りにある鄙びた店で田舎そばを食べる予定であった。

ところが中島さんが、鹿児島名物「黒豚のしゃぶしゃぶ」を食べたいと言い出した。しかも、店は鹿児島市の中心街である天文館通りの「鹿児島産黒豚料理 黒福多^{くろふた}」をご指名である。



店は、天文館通りアーケード街のすぐそばにあった。

この店を選んだ背景には、話せば長い経緯と蘊蓄^{うんちく}があったが、ここでは割愛

カウンターとテーブル席の有る、中々しゃべれたお店であった。



平日のみのランチメニュー（黒豚しゃぶしゃぶ（肩ロースと三枚肉）@1600円）を注文汁もタレも良いお味でありました。



天文館通りは鹿児島県下一番の繁華街

昼食後に天文館のアーケード街を歩いた。平日の昼間で人通りは少なかったが、土日ともなれば、どっと人が繰り出してくる。鹿児島市の中心街では今でも路面電車が走り、主要な交通手段となっている。



13時20分、鹿児島市街を後にして、再び鹿児島半島南下のドライブを続けた。

行き先は知覧町の武家屋敷群。1時間ほどで到着した。

知覧は薩摩藩外城の一つで、歩きながら楽しめる景観と庭園の美しさで知られている。暫く散策することにした。



屋敷内では今でも所有者が日々生活している。許可された家のみ、中庭まで入ることが許可されている。



屋敷群の中ほどに落ち着いた構えのお土産物屋があった。全国にも名の知れた「知覧茶」が沢山並べてあった。
(もっとも中島さんは、「知覧茶」のことはあまりシランと言っていたので、当県出身である吉松の^{ひいき}最親が過ぎているのかもしれないが・・・)



土産物屋で知覧茶を眺めながら、はるか昔、レポーター吉松の結婚式の引き出物として、「知覧茶」を選んだことを思い出した。

再び屋敷群を散策

戸をあけ放って部屋の中まで見学できる屋敷もある。江戸時代の外城武士の生活を想像できる。



長屋門

昔の武士は袴を着て刀を腰に落とし、このような立派な長屋門をくぐっていたのでしよう。

15時、武家屋敷群からほど近い所にある**知覧特攻平和会館**を訪れた。

太平洋戦争（大東亜戦争）末期に、知覧から飛び立った特攻隊員の遺品や関係資料が数多く収められている。特に若い特攻隊員が残した遺書を丁寧に読むと、涙が出てきて止まらない。

今回はあまり時間に余裕が無かったので、急ぎ足で見て回った。



知覧特攻平和会館玄関

海中に沈んでいたゼロ戦が引き上げられて、展示されている。



15時50分頃に会館を後にして、指宿町山川のヘルシーランド露天風呂「たまたま箱温泉」へ向けて急いだ。

「たまたま箱温泉」は男女ともに露天風呂だけで、開聞岳や竹山、東シナ海などを望みながら手足を伸ばすことができる。天気が良いときは、海に沈む夕日が最高なのだそうだ。

この施設は、大規模改修の為に明日から1年近く閉館するとのことであった。

我々は閉館前の最後の日に入浴で来た。



「たまたま箱温泉」玄関
温泉の湯けむりが、盛んに立ち上っていた。



料金は一人 510 円

玄関建物から風呂へ通じる出口を抜けると、そこから更に屋根が無い通路を温泉入口まで歩いて行く。
写真左が男用露天風呂入口、写真右は女性用露天風呂入口



男女風呂とも、我々が独占してしまった。

広くて大きな露天風呂から、竹山（写真左）、開聞岳（写真右）を望むことが出来た。
晴れていれば、別名薩摩富士と呼ばれる開聞岳を楽しむことが出来たはずだ。

因みに 2 枚のこの写真は、中島さんが風呂の中から撮影したものだ。



我々以外誰もいない露天風呂で、30 分ほど汗をながした。



さっぱりした様子の中島さんも露天風呂から上がってきた。

「たまた箱温泉」に隣接した場所に、**山川製塩工場跡**があり見学することが出来た。
地熱を利用した製塩工場で、ホームページで調べると昭和 18 年から 20 年ほど稼働していたそうである。



山川製塩工場跡

今では珍しい地熱による製塩工場である。
その先には大分雲が取れた開聞岳が見える。



今回立ち寄ることはしなかったが、温泉の噴気を活用した九州電力の**地熱発電所**も近くにあった。
創業 1995 年で現在も電力を供給し続けている。

予定の訪問先を全て回り、本日の宿泊先である**民宿「かいもん」**に向かった。



民宿「かいもん」は、JR 指宿枕崎線指宿駅のすぐ近くにあった。



民宿は、平屋建ての昔懐かしい雰囲気の家であった。本日の宿泊者は我々 2 人だけの貸し切り状態。
優しいな老夫婦が切り盛りしていて、あれこれと、良く話しかけてきてくれる。

宿では既に夕食が用意されていた。

温泉にも入って汗も流した後なので、早速食事を頂くことにした。

食事中も老夫婦は気を使ってくれて、色々話しかけてきてくれた。

特別豪華な料理ではなかったが、ご夫婦の気持ちのこもった手作り料理であった。



写真左は、夫婦手作りの漬物類や家庭料理

写真下は同じく手作りのさつま揚げ（薩摩弁では、「つつきやげ」）

市販のものよりは、よほど美味しかった。



ビールで乾杯のあとは、地元の焼酎「りえもん」を飲んだ。

名前は、琉球から鹿児島にサツマイモをもたらした、「前田利右エ門」に因んでいる。



鹿児島では、あえて頼まなければ日本酒は置いていない店や宿が多い。

「かいもん」でも、当たり前のようにお酒は焼酎であった。いつもは日本酒を楽しむ中島さんも、この日ばかりは焼酎を付き合い合ってくれた。

(お酒好きの中島さんにとって焼酎は思い出深いものらしいのだが、詳しいことはご本人の口からどうぞ・・・)

程よく酔って部屋に戻った吉松はバタンキューで寝てしまった。中島さんも似たようなものだったらしい。ふすま一枚隣の部屋で寝ていた中島さんには、吉松のいびきが良く響いたとか・・・。

～追記～ By 中島

「鹿児島産黒豚料理 黒福多^{くろふた}」を指名した長い経緯^{うんちく}を手短かに(笑)

推しの福山雅治のライブツアーが全国で開催されています。鹿児島は5/25-26に西原商会アリーナで行われました。毎週放送されている「福のラジオ」(土曜日14時～東京FM)で鹿児島といえば天文館で豚しゃぶしゃぶだよ。に影響されて天文館の豚しゃぶしゃぶのお店を調べていると沢山ある。どこがいいのかなと探していると、ライブにバイオリニストで出演している金原千恵子さんのXに「黒福多」で友人と訪れていたのを発見！ここに決定！天文館は高速をおりなくてはいけないのですが無理を言って天文館に行ってもらいました。お店に入ってみるとカウンターがあり、奥にはテーブル席・座敷がありました。壁にはサイン色紙も多く飾ってありました。人気店なのですね。ランチの豚しゃぶしゃぶは1,600円。お値段もお手頃で満足できました。

吉松さんも気に入ってくれたようでまた訪れるかも。と言っていました。行ってよかったです。

ちなみに、今回のライブツアー、私は横浜アリーナ・さいたまアリーナ・武道館と3公演参戦予定です♪

